



巻 頭 言

情報提供の重要性

財団法人 日本植物調節剤研究協会 評議員 大塚 範夫
八洲化学工業株式会社 常務取締役

子どもを取巻く環境は、数年前に思い描いていた姿を遥かに超えたスピードで変化し続けています。「省庁の再編」、「JA グループの組織再編」、「国内外の農薬関連企業の吸収・合併」、「流通の再編」などです。“変化に如何に対応するか”が最重要課題であるとも言われています。以前には想像すらし得なかった事が、現実の姿として目の前に具体的に提示され、どのように対応すべきなのか、正解を求めて右往左往している状況です。この変化は、さらに劇的なものになっていくであろう事は想像できますが、それがどのような姿になるのかの絵が描けません。したがって、どのような課題が出てくるのかも見えません。

農業を取巻く環境が大きく変化しつつある中で、農家の要望も多様化の様相を示してきています。水稻除草剤の製剤についても劇的に変化しています。数年前までは3kg 粒剤が主力でしたが、1キロ粒剤、フロアブル剤、顆粒水和剤、ジャンボ剤、さらには省力化を目指した製剤が出現しています。殺菌、殺虫剤に関しても同様で、「効力、省力、安価、安全」をキーワードに、1地域1剤集中使用から、地域、農家に対応した薬剤へと変化してきています。これに従って、農業に関する情報提供も全般的なものから、地域や個々の農家に適した個別情報・専門情報の提供が必要な時代になってきています。

農薬はそれぞれの薬剤毎に特徴があり、使い方を誤れば大きな問題を起こしますし、適期に正しく使えば期待どおりの成果を示す資材となります。使い方に工夫を要する技術商品ですが、

昨今の状況を見ると、一般資材と同様の扱いに成り下がったような状況にあり、非常に残念に思っています。普通物が主体となった今では、昔ほど頻繁に情報提供をしなくても良いという風潮が全体に漂っているように感じます。これとともに、利益追求にのみ奔走しているようにも感じます。

講習会を開催しても人が集まらないと言う話を良く聞きます。他業務を兼ねているため忙しくて研修会に出ていられないと言う話も聞きます。資材全体の研修会を行っても農業に関する情報提供は以前ほどの比重をかけられないと言う話も聞きます。手間と経費ばかりかかって効率的でないと言う話も聞きます。このような話を聞く度に、農業に対する熱意と関連する技術レベルが、年とともに低下してきているのではないかと心配しています。経済合理性ばかりが追求され、農薬の使用に関する指導（情報提供）に対する評価が正当になされてこなかった事にも一因があるように思います。また、変化に対応できず昏迷の度合いを深めて泥沼にはまり込み、身動きがとれない状況にあるようにも感じます。

このまま進行していけば、農薬を散布する人は、何らかの注意もせず安易に農薬を使用する事になり、指導すべき立場の人にもそれに気付かずに見逃してしまうという状況が生まれてくる懸念もあります。私達自身が、立っている地盤を見つめ直し、各段階が本来の果たすべき役割を再認識し、原点に立ち戻って考え、実行していく必要があるように考えています。